

稲嶺知事 訪米の概要



リビア国務省次官補代行との要請後のインタビュー



国際戦略研究所(CSIS)にて



ニール・アバクロンビー下院議員との面談



エド・ケース下院議員との面談



左から稲嶺知事、ローレス国防総省副次官、翁長市長



今回の訪米では、多くの方と直接面談し、本県の基地問題の解決を訴えました。お会いした方々からは、米軍再編が進む中での良い時期の訪米であるとの評価を受け、的確な時期に在沖米海兵隊の県外移転等について伝えられたと考えています。

今後も日米両政府の協議の状況を把握しながら、基地負担の軽減の実現に向け、より強く働きかけていきます。

**連邦議会関係者等との面談  
シンクタンクでの講演**

連邦議会のケース下院議員やアバクロンビー下院議員のほか、トロートマン太平洋海兵隊副司令官やラウヘッド太平洋軍副司令官、フォーリー元駐日大使等と面談しました。

また、国際戦略研究所(CSIS)のヘムリー所長らやブルッキングス研究所のブッシュ上級研究員等と意見交換を行ったほか、CSISでは本県の米軍基地の現状等について講演を行い、多くの方々に米軍基地問題についての理解と協力を求めました。



# 稲嶺知事 訪米の概要

稲嶺知事は3月12日から20日までの9日間、知事就任後2回目となる要請活動を行いました。



**連邦政府への要請**

ローレス国防総省副次官、リビア務省次官補代行、グリーン国家安全保障会議アジア問題担当上級部長等の政策立案の実務責任者に会い、写真や地図を用い本県の米軍基地の現状等について説明しました。

米軍再編の中で、本県の過重な基地負担の軽減が実現されることの必要性を訴えた上で、その実現のため特に「在沖米海兵隊の県外移転」、「嘉手納飛行場の運用改善」、「陸軍複合射撃訓練場の建設中止」、「日米地位協定の抜本的見直し」の四項目を強く要請しました。

今回の訪米目的は、戦後六十年の長期にわたり過重な基地負担をしている地元の立場から世界的な規模で米軍再編が行われているこの時期に、基地問題の解決を強く求める県民の意向や本県の実情を米国連邦政府や連邦議会関係者、シンクタンク等に伝え、理解と協力を求めることでした。



国防総省ペンタゴンへ向かう稲嶺知事とローレス国防総省副次官



**I D B 年次総会に向け本部を訪問**

イグレシアスIDB総裁と面談し、本県で4月10日から開催されるIDB年次総会開催に向け万全の体制を整えていることを伝えました。

**県人会との交流**

ワシントンやハワイでは県人会と交流会を持ち、ハワイの東西センターでは小淵沖縄教育研究プログラム等に対する継続的な協力を依頼したほか、沖縄県・ハワイ州高校生交流事業の参加者を激励しました。



握手をかわす知事とイグレシアスIDB総裁



沖縄県・ハワイ州高校生交流事業団



ワシントン沖縄県人会